

1

解答解説のページへ

$x$  を 1 でない正の実数とし,  $f(x) = (\log_2 2x)^2 - 5 \log_2 x + 3 \log_x 2$  とおく。このとき, 次の問いに答えよ。

- (1) 方程式  $f(x) = 2$  の解を求めよ。
- (2) 不等式  $f(x) \geq 2$  を満たす  $x$  の値の範囲を求めよ。

2

解答解説のページへ

整数  $x, y$  が方程式  $x^2 - 3y^2 = 1 \cdots \cdots \textcircled{1}$  を満たすとき,  $\begin{pmatrix} x \\ y \end{pmatrix}$  を  $\textcircled{1}$  の整数解と呼ぶ。行列  $A = \begin{pmatrix} 2 & 3 \\ 1 & 2 \end{pmatrix}$  とするとき, 次の問いに答えよ。

- (1)  $A$  の逆行列  $A^{-1}$  を求めよ。
- (2)  $\begin{pmatrix} a \\ b \end{pmatrix}$  が  $\textcircled{1}$  の整数解のとき,  $\begin{pmatrix} c \\ d \end{pmatrix} = A^{-1} \begin{pmatrix} a \\ b \end{pmatrix}$  も  $\textcircled{1}$  の整数解であることを示せ。
- (3)  $\begin{pmatrix} a \\ b \end{pmatrix}$  は  $a > 0, b \geq 0$  なる  $\textcircled{1}$  の整数解とし,  $\begin{pmatrix} c \\ d \end{pmatrix} = A^{-1} \begin{pmatrix} a \\ b \end{pmatrix}$  とする。このとき,  $c > 0, d < b$  となることを示せ。また,  $d < 0$  ならば  $b = 0$  であることを示せ。
- (4)  $\begin{pmatrix} a \\ b \end{pmatrix}$  が  $a > 0, b > 0$  なる  $\textcircled{1}$  の整数解のとき, ある自然数  $n$  に対して,  $\begin{pmatrix} a \\ b \end{pmatrix} = A^n \begin{pmatrix} 1 \\ 0 \end{pmatrix}$  が成り立つことを示せ。

3

解答解説のページへ

関数  $f(x) = \cos 3x + \cos 2x + \cos x$  ( $0 \leq x \leq \pi$ ) について次の問いに答えよ。

- (1)  $t = \cos x$  とするとき,  $f(x)$  を  $t$  の式で表せ。
- (2)  $f(x) = 0$  を満たす  $x$  の値を求めよ。
- (3) (2) で求めた  $x$  に対して,  $f'(x)$  の値を求めよ。
- (4) 定積分  $\int_0^\pi |f(x)| dx$  の値を求めよ。

4

解答解説のページへ

原点を  $O$  とする複素数平面上で、 $0$  でない複素数  $z, w$  の表す点をそれぞれ  $P(z), Q(w)$  とする。 $z$  に対して  $w$  を、 $O$  を始点とする半直線  $OP(z)$  上に  $Q(w)$  があり、 $|w| = \frac{2}{|z|}$  を満たすようにとる。このとき、次の問いに答えよ。

- (1)  $w = \frac{2}{z}$  を示せ。
- (2)  $\pm 2, \pm 2i$  の表す 4 点を頂点とする正方形の周上を点  $P(z)$  が動く。このとき、 $Q(w) = P(z)$  となる  $z$  を求めよ。
- (3)  $P(z)$  が(2)の正方形の周上を動くとき、点  $Q(w)$  の描く図形を求めて図示せよ。

1

問題のページへ

$$(1) \quad f(x) = (\log_2 2x)^2 - 5 \log_2 x + 3 \log_x 2 = (1 + \log_2 x)^2 - 5 \log_2 x + \frac{3}{\log_2 x}$$

$$= (\log_2 x)^2 - 3 \log_2 x + 1 + \frac{3}{\log_2 x}$$

ここで、 $\log_2 x = t$  とおくと、方程式  $f(x) = 2$  は、 $t^2 - 3t + 1 + \frac{3}{t} = 2$

$$t^3 - 3t^2 - t + 3 = 0 \quad (t \neq 0), \quad (t-1)(t-3)(t+1) = 0 \quad (t \neq 0)$$

よって、 $t = \pm 1, 3$  から、 $\log_2 x = \pm 1, 3$  なので、

$$x = 2, \frac{1}{2}, 8$$

$$(2) \quad (1) \text{と同様にして、不等式 } f(x) \geq 2 \text{ は、} t^2 - 3t + 1 + \frac{3}{t} \geq 2$$

$$t(t^3 - 3t^2 - t + 3) \geq 0 \quad (t \neq 0), \quad t(t-1)(t-3)(t+1) \geq 0 \quad (t \neq 0)$$

よって、 $t \leq -1, 0 < t \leq 1, 3 \leq t$  から、 $\log_2 x \leq -1, 0 < \log_2 x \leq 1, 3 \leq \log_2 x$

$$0 < x \leq \frac{1}{2}, 1 < x \leq 2, 8 \leq x$$

### [解説]

(2)は分数不等式と4次不等式の解法を問う問題です。現行課程のカリキュラム上の弱点をついた設問となっています。

2

問題のページへ

$$(1) A^{-1} = \frac{1}{4-3} \begin{pmatrix} 2 & -3 \\ -1 & 2 \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} 2 & -3 \\ -1 & 2 \end{pmatrix}$$

$$(2) \begin{pmatrix} a \\ b \end{pmatrix} \text{が } x^2 - 3y^2 = 1 \cdots \cdots \textcircled{1} \text{の整数解のとき, } a^2 - 3b^2 = 1 \cdots \cdots \textcircled{2}$$

$$\begin{pmatrix} c \\ d \end{pmatrix} = A^{-1} \begin{pmatrix} a \\ b \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} 2 & -3 \\ -1 & 2 \end{pmatrix} \begin{pmatrix} a \\ b \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} 2a - 3b \\ -a + 2b \end{pmatrix}$$

これより,  $a, b$  が整数のとき,  $c, d$  も整数であり, ②から,

$$c^2 - 3d^2 = (2a - 3b)^2 - 3(-a + 2b)^2 = a^2 - 3b^2 = 1$$

よって,  $\begin{pmatrix} c \\ d \end{pmatrix}$  も①の整数解である。

(3) (2)から  $c = 2a - 3b$ ,  $d = -a + 2b$  なので, ②を用いると,

$$4a^2 - 9b^2 = 4a^2 - 3(a^2 - 1) = a^2 + 3 > 0$$

$a > 0, b \geq 0$  より,  $2a > 3b$  となり,  $c > 0$  である。

また,  $b - d = b + a - 2b = a - b$  から, ②を用いると,

$$a^2 - b^2 = 3b^2 + 1 - b^2 = 2b^2 + 1 > 0$$

$a > 0, b \geq 0$  より,  $a > b$  となり,  $d < b$  である。

さらに,  $d < 0$  のとき  $-a + 2b < 0$ ,  $2b < a$  なので,  $a > 0, b \geq 0$  より, ②から,

$$a^2 - (2b)^2 = 1 + 3b^2 - 4b^2 = 1 - b^2 > 0$$

$-1 < b < 1$  となり,  $b$  は整数なので,  $b = 0$  である。

$$(4) \begin{pmatrix} a_0 \\ b_0 \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} a \\ b \end{pmatrix}, \begin{pmatrix} a_{n+1} \\ b_{n+1} \end{pmatrix} = A^{-1} \begin{pmatrix} a_n \\ b_n \end{pmatrix} \text{とおくと, } \begin{pmatrix} a_n \\ b_n \end{pmatrix} = (A^{-1})^n \begin{pmatrix} a \\ b \end{pmatrix}$$

ここで,  $\begin{pmatrix} a_0 \\ b_0 \end{pmatrix}$  が①の整数解より, (2)から帰納的に  $\begin{pmatrix} a_n \\ b_n \end{pmatrix}$  も①の整数解となり,

$$a_n^2 - 3b_n^2 = 1 \cdots \cdots \textcircled{3}$$

(3)より, 数列  $\{b_n\}$  は減少数列なので,  $b_0 > b_1 > b_2 > \cdots > b_n > b_{n+1} \cdots$  となり, また正の整数  $b_0$  より小さい自然数は有限個より, ある  $n$  に対して  $b_{n+1} < 0$  である。

このとき(3)より  $b_n = 0$ , ③より  $a_n > 0$  なので,  $a_n = 1$  となり,

$$\begin{pmatrix} 1 \\ 0 \end{pmatrix} = (A^{-1})^n \begin{pmatrix} a \\ b \end{pmatrix}, \begin{pmatrix} a \\ b \end{pmatrix} = A^n \begin{pmatrix} 1 \\ 0 \end{pmatrix}$$

### [解説]

有名な難問がまた出題されました。記憶をたどって調べていくと, 93年の広大・後期の数学科, 88年の京大・理系で出ています。

3

問題のページへ

(1)  $\cos x = t$  とすると,  $\cos 3x = 4t^3 - 3t$ ,  $\cos 2x = 2t^2 - 1$  なので,

$$f(x) = \cos 3x + \cos 2x + \cos x = 4t^3 + 2t^2 - 2t - 1$$

(2)  $f(x) = 0$  より,  $4t^3 + 2t^2 - 2t - 1 = 0$ ,  $(2t+1)(2t^2-1) = 0$ ,  $t = -\frac{1}{2}, \pm \frac{\sqrt{2}}{2}$ 

$$\cos x = -\frac{1}{2}, \pm \frac{\sqrt{2}}{2} \quad (0 \leq x \leq \pi) \text{ より, } x = \frac{\pi}{4}, \frac{2\pi}{3}, \frac{3\pi}{4}$$

(3)  $f'(x) = -3\sin 3x - 2\sin 2x - \sin x$  より,

$$f'\left(\frac{\pi}{4}\right) = -3 \cdot \frac{\sqrt{2}}{2} - 2 \cdot 1 - \frac{\sqrt{2}}{2} = -2\sqrt{2} - 2$$

$$f'\left(\frac{2\pi}{3}\right) = -3 \cdot 0 - 2 \cdot \left(-\frac{\sqrt{3}}{2}\right) - \frac{\sqrt{3}}{2} = \frac{\sqrt{3}}{2}$$

$$f'\left(\frac{3\pi}{4}\right) = -3 \cdot \frac{\sqrt{2}}{2} - 2 \cdot (-1) - \frac{\sqrt{2}}{2} = 2 - 2\sqrt{2}$$

(4) (3)より  $f'\left(\frac{\pi}{4}\right) < 0$ ,  $f'\left(\frac{2\pi}{3}\right) > 0$ ,  $f'\left(\frac{3\pi}{4}\right) < 0$  なので,  $0 \leq x \leq \frac{\pi}{4}$ ,  $\frac{2\pi}{3} \leq x \leq \frac{3\pi}{4}$ のとき  $f(x) \geq 0$ ,  $\frac{\pi}{4} \leq x \leq \frac{2\pi}{3}$ ,  $\frac{3\pi}{4} \leq x \leq \pi$  のとき  $f(x) \leq 0$  となる。 $F(x)$  を  $f(x)$  の不定積分の 1 つとすると,  $F(x) = \frac{1}{3}\sin 3x + \frac{1}{2}\sin 2x + \sin x$ 

$$\begin{aligned} I &= \int_0^{\pi} |f(x)| dx = \int_0^{\frac{\pi}{4}} f(x) dx - \int_{\frac{\pi}{4}}^{\frac{2\pi}{3}} f(x) dx + \int_{\frac{2\pi}{3}}^{\frac{3\pi}{4}} f(x) dx - \int_{\frac{3\pi}{4}}^{\pi} f(x) dx \\ &= F\left(\frac{\pi}{4}\right) - F(0) - F\left(\frac{2\pi}{3}\right) + F\left(\frac{\pi}{4}\right) + F\left(\frac{3\pi}{4}\right) - F\left(\frac{2\pi}{3}\right) - F(\pi) + F\left(\frac{3\pi}{4}\right) \\ &= -F(0) + 2F\left(\frac{\pi}{4}\right) - 2F\left(\frac{2\pi}{3}\right) + 2F\left(\frac{3\pi}{4}\right) - F(\pi) \end{aligned}$$

ここで,  $F(0) = 0$ ,  $F\left(\frac{\pi}{4}\right) = \frac{1}{2} + \frac{2}{3}\sqrt{2}$ ,  $F\left(\frac{2\pi}{3}\right) = \frac{\sqrt{3}}{4}$ ,  $F\left(\frac{3\pi}{4}\right) = -\frac{1}{2} + \frac{2}{3}\sqrt{2}$ , $F(\pi) = 0$  より,

$$I = 2\left(\frac{1}{2} + \frac{2}{3}\sqrt{2} - \frac{\sqrt{3}}{4} - \frac{1}{2} + \frac{2}{3}\sqrt{2}\right) = \frac{8}{3}\sqrt{2} - \frac{\sqrt{3}}{2}$$

## [解説]

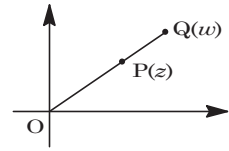
第 1 問と同じく, 計算力主体の問題です。特に(4)は疲れます。

4

問題のページへ

- (1) 半直線  $OP(z)$  上に点  $Q(w)$  があるので,  $k > 0$  として  $w = kz$  より,  $|w| = k|z|$  条件より,  $|w| = \frac{2}{|z|}$  なので,  $k|z| = \frac{2}{|z|}$ ,  $k = \frac{2}{|z|^2}$

よって,  $w = \frac{2}{|z|^2}z = \frac{2}{zz}z = \frac{2}{z}$

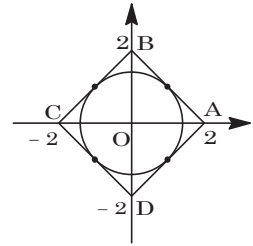


- (2)  $w = z$  とすると, (1)より,  $z = \frac{2}{|z|^2}z$

$z \neq 0$  より,  $|z|^2 = 2$ ,  $|z| = \sqrt{2}$

よって, 点  $P(z)$  は原点を中心とする半径  $\sqrt{2}$  の円周上にあり,  $\pm 2, \pm 2i$  の表す 4 点を頂点とする正方形との共有点を求めると,

$z = 1 \pm i, -1 \pm i$



- (3) まず, 点  $P(z)$  が線分  $AB$  上を動くとき,

$|z| = |z - (2 + 2i)| \dots\dots\dots ①, |z| \leq 2 \dots\dots\dots ②$

(1)より,  $w = \frac{2}{z}$  なので,  $\bar{z} = \frac{2}{w} \dots\dots\dots ③$

①より,  $|\bar{z}| = |\overline{z - (2 + 2i)}|, |\bar{z}| = |\bar{z} - (2 - 2i)|$

③を代入して,  $|\frac{2}{w}| = |\frac{2}{w} - (2 - 2i)|, \frac{2}{|w|} = \frac{2|1 - (1 - i)w|}{|w|}$

$|(1 - i)(w - \frac{1}{1 - i})| = 1, \sqrt{2}|w - \frac{1 + i}{2}| = 1, |w - \frac{1 + i}{2}| = \frac{1}{\sqrt{2}} \dots\dots\dots ④$

②より  $|\bar{z}| \leq 2$  となり, ③を代入して,  $|\frac{2}{w}| \leq 2, \frac{2}{|w|} \leq 2, |w| \geq 1 \dots\dots\dots ⑤$

したがって, 点  $P(z)$  が線分  $AB$  上を動くとき, 点  $Q(w)$  は④と⑤を満たす曲線, すなわち点  $\frac{1+i}{2}$  を中心とし, 半径  $\frac{1}{\sqrt{2}}$  の円周上で, 原点中心の単位円の外部または周上の部分を動く。

さて, 点  $z_1$  が線分  $AB$  上を動くとき,  $z_1$  を原点のまわりに  $\frac{1}{2}\pi$  だけ回転した点を  $z_2$ ,  $z_1$  を原点のまわりに  $\pi$  だけ回転した点を  $z_3$ ,  $z_1$  を原点のまわりに  $\frac{3}{2}\pi$  だけ回転した点を  $z_4$  とすると,

$z_2 = iz_1, z_3 = -z_1, z_4 = -iz_1$

このとき点  $z_2$  は線分  $BC$  上, 点  $z_3$  は線分  $CD$  上, 点  $z_4$  は  $DA$  上をそれぞれ動く。



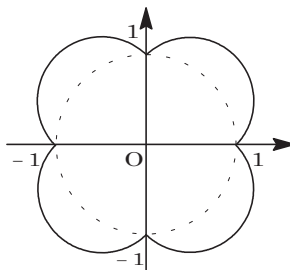
ここで、 $w_1 = \frac{2}{z_1}$  とおくと、点  $w_1$  は④と⑤を満たす曲線上を動く。

$$\text{すると、 } w_2 = \frac{2}{z_2} = \frac{2}{-iz_1} = i \frac{2}{z_1} = iw_1, \quad w_3 = \frac{2}{z_3} = \frac{2}{-z_1} = -w_1$$

$$w_4 = \frac{2}{z_4} = \frac{2}{iz_1} = -i \frac{2}{z_1} = -iw_1$$

以上より、点  $w_2, w_3, w_4$  は、動点  $w_1$  を原点のまわりに  $\frac{1}{2}\pi, \pi, \frac{3}{2}\pi$  だけ回転した点となり、点  $Q(w)$  の軌跡

は、まとめると右図の実線のようになる。



### [解説]

複素数平面上における軌跡の問題で、昨年、名市大・医に類題が出ています。そのとき考えたのと同じ方針で、上の解を作りました。